

## ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

古江 智 瑛  
Tomoaki FURUE  
情報メディア学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイとシンガポールにて企業見学、ハノイ工業大学の学生とのPBL、南洋理工大学見学、ビジネスパーソンとの交流、講演会を含むASEANグローバルプログラムに参加した。今回のプログラムの具体的な研修日程を表に示す。

表 研修日程

8/29 (火)	入国 ベトナム, オリエンテーション
8/30 (水)	企業見学
8/31 (木)	PBL
9/1 (金)	PBL
9/2 (土)	自由行動
9/3 (日)	入国 シンガポール, オリエンテーション
9/4 (月)	南洋理工大学見学及び交流会
9/5 (火)	ビジネスパーソン交流会, 講演会
9/6 (水)	自由行動
9/7 (木)	帰国

### 2. 志望動機

今回私がこのプログラムに参加した理由は、海外に出る良い機会だと考えたからである。私自身、海外に出たことが一度もなかった。以前から海外に出てみたいと考えてはいたが、なかなか踏み出せずにいた。そんな時にこのプログラムの話をきいて、時間的にも余裕がある時期に海外に出て知見を広めたいと考え、このプログラムに参加した。

### 3. 目的

私がASEANグローバルプログラムに参加した際の個人的な目的は3つあった。1つ目は、積極的に英語を用いて現地の方々とコミュニケーションとることである。日本国内で英語を学ぶことはできるが、英語を話す機会は少ないと考えられる。これを機に海外の方々とコミュニケーションをとろうと考えた。2つ目は、積極的に行動を起こすことである。積極的という面においては1つ目の目的とも共通であるが、こちらは班行動や現地において自身の置かれている状況を認識し、その上で行動するということである。積極的に行動しなければただの海外旅行と変わらないと自分に言い聞かせた、何かを得るためにも自分からの行動が必要であると考えた。3つ目は、日本との違いを見つけることであった。

### 4. プログラムの概要

ベトナムでは、日系企業である Takagi Vietnam を訪れた。そこでは、浄水器を製造していた。私たちは、そこで工場見学をさせて頂き、現地の方々のお話を伺った。その後、現地企業である Rikkeisoft, NTQ solution でもお話を伺えた。ベトナムでは他に、ベトナム人学生の方々と一緒に行う2日間のPBLもあった。シンガポールでは、到着日にシンガポール国立博物館、翌日に南洋理工大学を訪れた。大学では、キャンパスプログラムに参加し、講義を聴き、施設を視察、現地の学生と交流できた。シンガポールでは他に、ビジネスパーソンの方々と交流した他、築野勝彦氏と加藤順彦氏の講演会があった。本稿では特にシンガポールでの交流会と講演会について報告する。

### 5. ビジネスパーソンの方々との 交流会・講演会

9月5日(火)にシンガポールにて、4人のビジネスパーソン(築野勝彦氏、寺嶋毅氏、芝崎公哉氏、大野靖子氏)との交流会及び、築野勝彦氏と



写真1 ビジネスパーソンの方々ととの交流会の様子



写真2 加藤氏の講演会の様子

「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の著者である加藤順彦氏の講演会が行われた。

ビジネスパーソンの方々とは、食事会の席で個別に話を聞くことで、様々な質問をすることが出来た。個人的には、大野氏からビジネスの話からプライベートな話まで聞くことができ、学ぶことが多かった。これらの実際に海外で働いている方々の話を聞くことで、将来の自分、職業、就職、進路、人との関わり方を改めて考えさせられた。特に、就職や進路に対する考え方はかなり変わった。

講演会については、シンガポールに訪れる前に事前課題として加藤氏の著作を読んだ上で講演に臨んでいた。主な講演内容は、加藤氏自身の学生時代でのビジネス活動やこれからのアジアや日本におけるビジネスの話だった。この講演を聞いて、自分との

行動力の差を感じた。若いころから失敗を積み重ねることで、今の、あるいは将来の自分になるのだなと実感した。

## 6. プログラムを終えて

今回のプログラムを通してたくさんの経験をさせて頂いた。ベトナムの企業訪問をはじめ、ベトナムの学生との交流もあり学ぶこともあり、楽しむこともできた。

現地では、自分の英語力のなさを実感した。積極的に現地の方々に話しかけることはできたが、スムーズにはいかなかった。このことから、日ごろからの英語の学習が必要不可欠であると実感した。

また、ベトナムやシンガポールの方々は表情豊かであり、積極的に自分から行動する人が多いと気づくことができた。今後、海外に出るときは、自分から行動を起こさないと周りから取り残されると考えられるので、日ごろからの行いを見直し、行動力を身に付けていきたい。

## 7. おわりに

今回ベトナムとシンガポールで経験できたことは、今後の自分にとってかけがえのないものとなった。自分にとって足りなかったものは何か、逆に要らないものは何か気づき、理解することができた。

3つの参加目的についても、すべてを完璧に達成することはできなかったが、ある程度は達することができたと思う。英語をはじめ、今後の自分における課題を数多く見つけることができ、これからどのようにして成長するのか、方向性を定めるのが重要になってくると考えられる。今回のプログラムでは様々な経験や知識、気づきを得ることができた。これらを今後の自分に活かしていきたい。

今回のプログラムに参加させて頂けたことに感謝致します。